

JCHO札幌北辰病院広報誌 ポラリス

Polaris

hokushin.jcho.go.jp

No.63

2022.8

〈特集〉

CT装置リニューアル



独立行政法人 地域医療機能推進機構
JCHO 札幌北辰病院

地域の患者さんの 自分らしい生活をサポートします



部署紹介

No.1 リハビリテーション部

リハビリテーション部は総勢12名で、医師1名、理学療法士8名、作業療法士2名、言語療法士1名からなる専門スタッフが所属する部署です。

病気やケガがきっかけで自分の身の回りのことができなくなった患者さん一人ひとりの希望に寄り添って支援することを心がけています。



言語聴覚士

Speech Therapist (ST)

摂食嚥下機能やコミュニケーション能力（発声・認知など）の維持や改善



理学療法士

Physical Therapist (PT)

基本動作能力（起きる・座る・立つなど）や歩行能力の維持や改善など



作業療法士

Occupational Therapist (OT)

日常生活動作（食事・トイレ・更衣など）や家事動作の改善、認知機能の維持改善など



Message1

多くの診療科から リハビリ依頼

当院のリハビリテーションは、ほぼすべての診療科より依頼を受け、介入しています。入院中は運動する機会が減ってしまうため筋力の低下、筋肉の萎縮が年齢に関係なく起こります。私たちが早期より介入することで、患者さんが安心して早期退院できるよう関わっています。

積極的なカンファレンスへの参加

患者さんの状態や治療内容についてよく理解し、安全・安心のリハビリが行えるよう、各科のカンファレンスに積極的に参加しています。

医師、看護師など、多職種と連携し、患者さんの目標を共有することで退院・転院がスムーズにできるよう努めています。



Message2

退院後の暮らしを イメージしたサポート

当院の地域包括ケア病棟では、自宅に帰るための生活リハビリを行っています。病棟スタッフと連携し、トイレまでの歩行や着替え、歯磨きなど日常生活に必要な動作を患者さんが自力でできるよう支援しています。

ご家族のサポートも行います

患者さんに自分でできる運動を身に付けていただくことで、退院後の在宅生活も安全に過ごせるようサポートしています。また、ご家族や患者さんが退院後の生活をイメージしやすくなるため、入院中のリハビリをご家族に見学していただくことがあります。退院後の不安や悩みを少しでも解消できるように専門スタッフがアドバイスをしています。



おうちでできる簡単トレーニングをご紹介します！ (1セット×3回／日)

パタカラ体操



パパ・パ

唇を閉じて、開く



タタ・タ

舌を上アゴにくっつけて



カカ・カ

喉の奥に力を入れて
舌の奥をのどに押し付けて



ララ・ラ

舌を丸め、
舌先を上前歯の裏に付けて

□□モ体操

バランス能力を鍛える

片脚立ち

(左右1分間ずつ)

必ずつかまりながら
やりましょう



床につかない程度に片足を
上げます

ふくらはぎの筋肉を鍛える

つま先立ち

(10回～20回)

必ずつかまりながら
やりましょう



両足で立った状態でかかとを
上げて、ゆっくり降ろします

下肢の筋力を鍛える

スクワット

(5回～6回)

動作中は息を止めない
ようにしましょう



膝がつま先より前にならない
ようにしましょう

特集

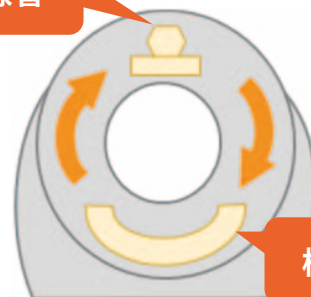
CT装置リニューアル



キヤノンメディカルシステムズ社製 Aquilion Prime SP I Edition

CT (Computed Tomography) 装置とは、X線を使った画像診断装置です。CT装置にはX線を照射する「X線管」と、通過したX線量を受け取る「検出器」があり、そのデータを集めてコンピュータ処理することによって身体の断面を画像化します。そのため、検出器が多く配列されているほど短時間で広範囲の画像の撮影が可能となります。

X線管



検出器

当院では2台の80列マルチスライスCTを用いて検査を実施し、待ち時間、撮影時間の短縮に努めています！



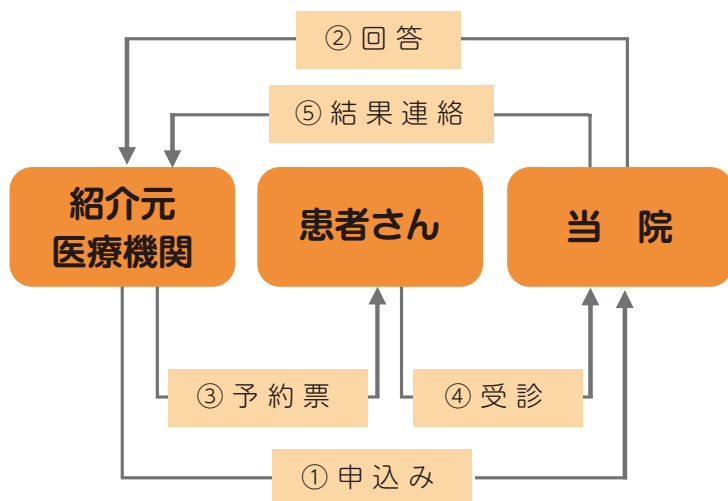
マルチスライスCTの特徴

- 大幅な撮影時間の短縮が可能
- 非常に細かい間隔 (0.5mmスライス厚) での撮影が可能
- 鮮明な3D画像の構築が可能
- 一度の息止めで広範囲の撮影が可能

地域の医療機関から検査のみの 予約もお受けします！

当院では、地域の医療機関との連携窓口として「医療連携・相談室」を設置しています。医療連携・相談室では、診察の予約のほか、検査のみ（読影有）のご紹介も受け付けていますので、ぜひご利用ください。

ご利用の流れ



申込方法

検査の予約希望とご連絡ください
(医療連携・相談室宛に申込書をFAXでも可)



011-893-5884



011-893-3340

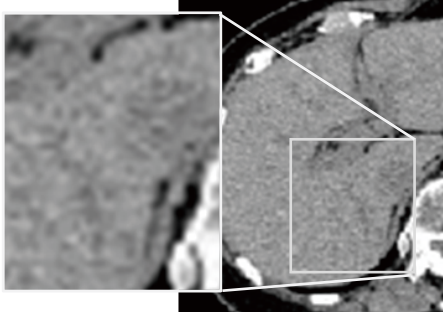
当院では認定技師を中心として、標準医療に基づいた画像情報の提供および安全で安心な検査の提供が可能です。

X線CT装置の複雑化した技術への対応や被ばく線量の管理などが適切に行われることを目的としています。

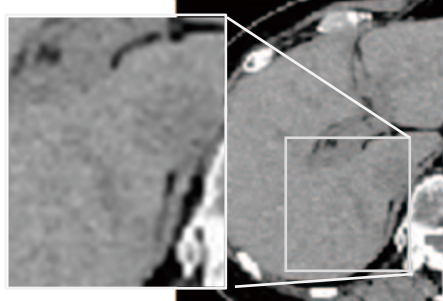
当院では認定技師を中心として、標準医療に基づいた画像情報の提供および安全で安心な検査の提供が可能です。

X線CT認定技師が在籍

従来装置



新装置 (AI技術)



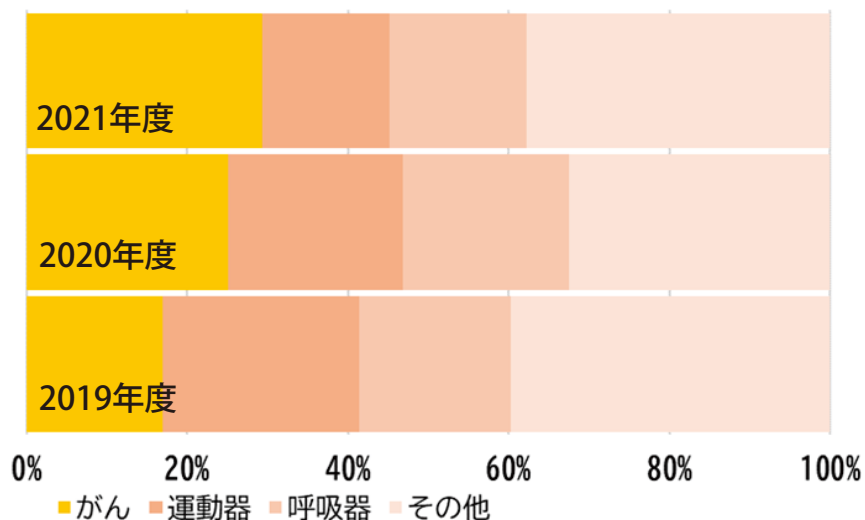
劇的な画質の向上と大幅な被ばく低減

CTの画質はX線量に応じてノイズが軽減するため、高画質の画像を撮影するためにはX線を多く照射する必要があります。今回、当院で導入した新装置では、AI技術を用いた画像再構成技術が搭載されたことで画質が劇的に改善されました。また、それにより短時間での撮影が可能となり、被ばく量も大幅に低減し、最大75%の被ばく低減が可能となります。



疾患別リハビリ実施割合の推移

～多様化する疾患別リハビリテーション～

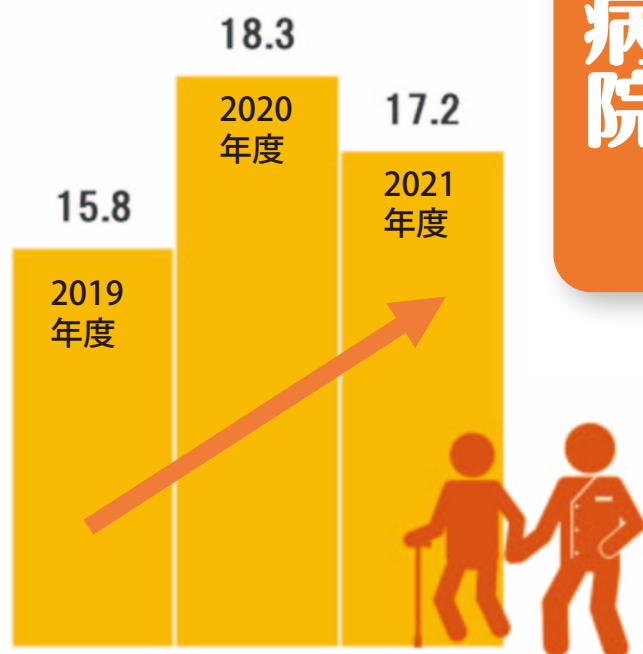


患者さんの疾病や状態に合わせて施行する疾患別リハビリテーションは近年多様化が進んでいます。

当院の場合、近年はがん患者さんに対して実施するがんリハビリテーションの割合が増えてきており、退院後の生活機能の維持や向上を目指して取り組んでいます。

セラピスト1人当たりのリハビリ実施単位

～早期の在宅復帰、社会復帰を目指して～



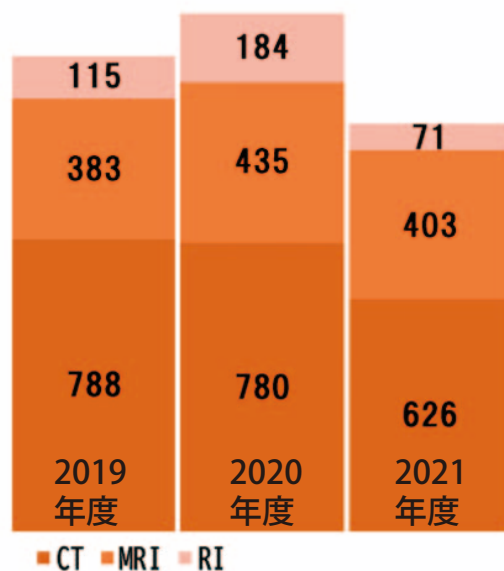
患者さんが早期に在宅復帰、社会復帰するためにはセラピストによる積極的なリハビリ介入が欠かせません。

当院ではセラピスト1人当たり1日18単位の実施を目指して日々取り組んでいます。多様化する疾患別リハビリへ柔軟に対応することで実施単位数は近年上昇傾向にあります。

数字でナルホド
札幌北辰病院

CT・MRI・RIの撮影依頼件数

～地域の中核病院として～



地域の病院、クリニックからの画像撮影依頼を積極的に受け入れており、毎年1,000件以上のご依頼をいただいています。今号の特集記事にもありますCT撮影のご依頼を特に多くいただいております。

放射線診断専門医が2名在籍しており、迅速丁寧な画像診断を依頼元へお返ししております。

— わたしのお仕事 —

女性やお子様の 泌尿器トラブルを解決

泌尿器科 医師 西村 陽子



女性が泌尿器科を受診する際にハードルとなる「恥ずかしさ」や「相談のしにくさ」をなるべくなくし、気軽に相談できる環境づくりに取り組んでいます。

Q1 泌尿器科医を目指したきっかけは？

私が医学生の際、泌尿器科は非常に人気のない診療科で慢性的な医師不足に悩まされていました。

私はその環境がかえってやりがいがあるのではないかと考えたことがきっかけです。

Q2 最近特に力を入れていることは？

これまで小児泌尿器科を専門に診療していましたが、最近は女性泌尿器科の診療にも力を入れています。

Q3 泌尿器疾患で悩む患者さんにメッセージを！

尿路のトラブルは気付かないうちに進行していることがあります。頻尿や下腹部の不快感、ムズムズ感などでお困りの方は当科の受診をご検討ください。



Off shot

子供が夏休みの間はお弁当作りが日課。一日も早い2学期のスタートと給食の再開を切に願っています。



病院設備リニューアルNEWS



今年の夏、全病室にエアコン設置工事を行われ、快適にお過ごしいただけるようになりました。



エレベーターの老朽化に伴い、更新工事を行っております。工事期間中はご不便をおかけいたしますがご理解・ご協力のほどよろしくお願いいたします。



市民公開講座

完全予約制

2022年10月1日 土 9:30～11:30 (受付・開場9:00～)

札幌学院大学 303教室 札幌市厚別区厚別中央1条5丁目1-1
(新さっぽろキャンパス)

～がんの治療を知って、自分らしく生きる～

「肺がんについて」

梅田 泰淳 (呼吸器内科医長)

「胃がんについて」

高橋 徹 (消化器内科医師)

「大腸がん治療とACPについて」

下國 達志 (外科診療部長)



いきいき健康教室

完全予約制

2022年9月26日 月 14:00～ 当院2F 講義室

「自宅でできる嚥下トレーニング」 早坂 ゆい (リハビリテーション部言語聴覚士)

申込方法 ☎ 011-893-3000 (受付時間：平日 9:00～16:00)



私の趣味のひとつに家庭菜園があり、今年で25年になります。最初は市民農園を借りていた家庭菜園ですが、現在は100坪の農地で、枝豆、オクラ、トマト、ズッキーニ、きゅうり、とうもろこし、じゃがいもなど約30種類の農作物を育てています。今年の春先は例年より降水量が少なく、野菜たちが大きく育つか心配していましたが、問題なく夏野菜を収穫できて嬉しい限りです。昨年はとうもろこしがアライグマの被害に遭い全く収穫できなかったため、今年は早めのアライグマ対策で万全を期したいです。



▲ オクラの花



◀ 枝豆の花

枝豆も順調に成長しています▼



ズッキーニは収穫真っ盛り▶



▲ トマトが赤く色づいてきました



▲ 今年の畑の様子

